

本校の全国学力・学習状況調査の結果について

H26. 10. 17

はじめに

本年度の全国学力・学習状況調査は、4月22日（火）に全国の小中学校で実施され、本校でも、3年生152名が参加しました。調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれ、各教科ともA；主として「知識」に関する問題と、B；主として「活用」に関する問題に分かれています。

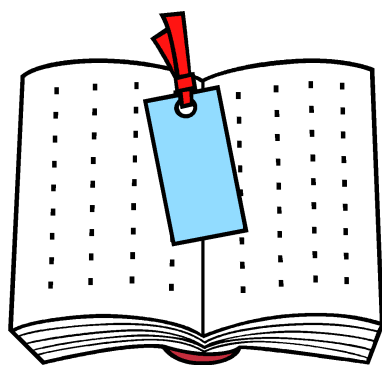
この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的としています。

去る8月26日に文部科学省から本校の結果が送られてきました。本校では、桐龍祭や新人戦などの行事や教育実習への取組などと並行して調査結果の分析を行ってきました。各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思えます。

なお、調査に参加しました3年生一人ひとりには、後日個人票を配付します。自分の結果を確認し、個人的にも今後の学習に役立ててください。よろしくお願いします。

1 本校の状況（全国との比較）

本校の全体的な傾向は、例年どおり国語A、国語B、数学A、数学Bすべてにおいて平均正答率が極めて高く、良好な結果である。また、各自の正答率に目を向けても、散らばり方が小さい。国語・数学ともA問題に比べてB問題の平均正答率が若干低い傾向もこれまで同様であるが、全国と比べるとその差は小さい。本校としても、今後平均正答率を下げることなく、この差をより小さくしていけるように、活用する力の育成に関して、いっそう力を入れて指導していきたい。



本校の各調査結果を比較すると、次のように言える。国語では、A問題で、全国の平均正答率との差が他の3つの問題ほどは大きくない。これは、本校の平均正答率はかなり高いが、全国の平均正答率も高かったことが原因であろう。数学では、A問題で、各自の正答率の散らばり具合がやや大きい。教科の特性なのかもしれないが、散らばりを小さくできれば、A問題の平均正答率をさらに高くできる可能性があるということでもある。日常生活にかかわる課題を取り上げて行っている教科研究を、今後も継続

していくことで、活用する力の育成とともに、高い正答率を維持しながら、各自の正答率の散らばり具合を小さくすることが可能ではないかと考える。

[参考] 国公立を含めた全国平均正答率と公立中学校の県平均正答率

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国平均正答率	79.8	51.6	67.9	60.5
全県平均正答率	80.0	52.0	66.6	59.7

2 本校の主な成果と課題

国語

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体をとおして無解答率は極めて低い。これは、知識に関する基礎基本の理解の高さと問題を解決しようという積極的な姿勢や学習への意欲の高さの表れといえる。
- 言語についての知識・理解・技能については、設問により差は見られるものの、全国平均と比べて、本校における正答率の高いものとなっている。
- △ 全国的な傾向において課題とされている「話すこと・聞くこと」に関する設問の「目的にそって話し合い、互いの発言を検討すること」については、本校においても他の設問に比べて正答率が低い。

B 主として「活用」に関する問題

- 設問全体をとおして無解答率は、記述式も含めて極めて低い。これは、既習事項を活用するための基礎基本の理解と問題を解決しようという積極的な学習への意欲の高さの表れといえる。
- 全国的な傾向において課題とされている「書くこと」に関する設問の「根拠を明確にして自分の考えを書くこと」については、本校では高い正答率となっている。
- △ 全国的な傾向において課題とされている「読むこと」に関する設問の「複数の資料を比較して読み、要旨を捉えること」については、本校においても他の設問に比べて低い正答率となっている。

数学

A 主として「知識」に関する問題

- 全体をとおして無解答率が極めて低く、内容に対する理解と、何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。
- 全国的な傾向において課題とされた、数量の大小関係を不等式に表すこと、グラフと表を関連付けて反比例を理解すること、一次関数の変化の割合を理解すること、相対度数を求めることについては、本校では相当数の生徒ができています。
- △ 全国的な傾向において課題とされた、図形の回転移動の前後における角の対応を読み取ること、関数の意味を理解することについては、全国ほどではないが、本校も他の設問に比べてやや正答率が低い。



B 主として「活用」に関する問題

- 記述問題も含めて無解答率が低く、内容に対する理解と、自分の考えを表現する力、何とかして問題を解決しようという意欲が、ともに高いことがうかがえる。
- 全国的な傾向において課題とされた、予想された事柄が成り立たないことの説明、グラフを用いた方法の説明については、本校では多くの生徒が説明ができています。
- △ 全国的な傾向において特に課題とされた、証明を振り返り発展的に考えること、確率を用いた理由の説明については、全国ほどではないが、本校も他の設問に比べてやや正答率が低い。

3 各教科における主な改善点

国語

- * 漢字の読み書きは日頃からの家庭学習習慣も含めて身につく力である。継続して学習する必要がある。
- * 互いの発言を検討する力を養うために、自分の意見を表出する機会を多くもつ。また、他者の意見に対して「共感・疑問・批判」といった観点をもちながら聞く指導を行う。
- * 複数の資料や情報を得た際に、それらの中から、自分の目的や相手に応じて必要なものを選び取る機会を多くもつ。
- * 自分の考えを相手に明確に伝えることを意識させるため、自分の考えを表出する際「どのような相手に対して」という意識を強くもつ指導を行う。同じことを伝えるのにも相手によって伝え方、伝わり方が違うということ意識させることで、その表現方法にも着目できる。

数学

- * 図形の移動を含め、図形を操作する過程において、実際に図をかいて考えさせ、実感を伴った理解ができるようにする。
- * 関数関係についての生徒の曖昧な表現を、数学的に正しく表現させる機会を増やす。
- * 証明の記述を与え、根拠となる事柄に着目させて、三角形を四角形に変えてみるなど問題の条件を変えた場合について、発展的に考えさせるようにする。
- * 確率を求める指導だけではなく、それを用いて問題を解決する機会を増やす。

4 質問紙調査の主な特徴

質問紙調査は、学校や家での勉強や生活の様子について調査したものである。全国における、学校や家庭での学習や生活の状況と全国学力・学習状況調査の国語と数学の結果との関係については、国立教育政策研究所のHPに掲載されている「平成26年度全国学力・学習状況調査 報告書・調査結果資料」のとおりである。

本校生徒の生活習慣や家庭学習などの主な状況は以下のとおりである。

生活習慣について

- * 「毎日朝食を食べている」と回答した生徒の割合（％）は、全国平均を10.1ポイント上回っている。
- * 「普段（月曜～金曜、以下同じ）1日あたりのテレビなどを視聴する時間」については、1時間以上、2時間未満と回答した生徒の割合が最も多い。
- * 「普段1日あたりのテレビゲームなどをする時間」については、1時間未満と回答した生徒の割合が最も多い。
- * 「普段1日あたりの携帯電話等での通話、インターネット、メールをする時間」については、30分未満と回答した生徒の割合が最も多いものの、4時間以上、3時間以上と回答した生徒も若干いる。



自分や友達、学級について

- * 「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」と回答した生徒の割合は、全国平均を13.5ポイント上回っている。
- * 「自分には、よいところがあると思う」と回答した生徒の割合は、全国平均を10.8ポイント上回っている。

- * 「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した生徒の割合は、全国平均を19.6ポイント上回っている。
- * 「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」「友達に伝えたいことをうまく伝えることができる」と回答した生徒の割合は、全国平均並みである。
- * 「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」については、当てはまると回答した生徒の割合が全国平均より23.6ポイント上回っている。

学習や読書について

- * 「普段1日の学習時間」については、1時間以上と回答した生徒の割合がとても多い。そのうち3時間以上も1割以上いる。また、「土曜日曜など、休日の1日あたりの家庭学習時間」も、4時間以上が2割以上であり、全国と比較して全般的に長時間、学習に取り組んでいる。
- * 「普段の1日の読書時間」については、10分以上30分未満の生徒の割合が最も多く、読書時間が確保されていない現状がある。
- * 「国語の勉強は好きか」「数学の勉強は好きか」については、それぞれ全国平均に比べて10ポイント以上高い。

地域や社会への関心について

- * 「地域の行事への参加」については、ほぼ全国平均と同じである。
- * 「地域や社会でおこっている問題や出来事に関心があるか」については、関心があると回答した生徒の割合は全国平均を22.6ポイント上回っている。また、「新聞を読む」「ニュース番組などをみる」生徒の割合もかなり高い。

5 質問紙調査からの改善点

- * 友達の話聞くことはできるが、自分の意見を発表したり考えを伝えたりすることについては、今後も育てていく必要がある。
- * 携帯電話やスマートフォン、インターネットを毎日使っている生徒が8割を超えている。使用方法や情報モラルをより一層指導していく必要がある。
- * 「読書が好き」と回答した生徒の割合は64ポイントであるが、1日の読書時間が1時間未満の割合が81.2ポイントに上る。今後も日常的な読書習慣を身に付けさせたい。

※ ご家庭へのお願い

調査結果から、本校の生徒は落ち着いた生活環境の中で、自分や友達を大切に、何事にも前向きに努力している様子が分かります。9割以上の生徒が、楽しく学校生活を送っているようです。

学習への意欲、取組内容や時間も全国平均を大きく上回っています。新聞を読み、ニュース番組を見るなど、社会に目を向け関心を寄せている生徒も大勢います。

読書については、読書が好きな生徒、月に数回図書館に行く生徒の割合がそれぞれ6割、5割を超えています。しかし、1日の読書時間が30分より少ない生徒が6割近くおり、全体的に読書時間は少ないと言えます。塾や習い事、家庭学習などに時間を取られるからかもしれませんが、日常的な読書習慣を身に付けさせたいものです。

自分の携帯電話等の所有率が全国平均より高く、携帯電話やスマートフォン、インターネットを毎日使っている生徒が大勢います。メールやSNSによるトラブルも多少受けられます。ご家庭でも使用ルールをつくるなど、ご協力をお願いいたします。